

シクロケム マヌカ+αCDを提案強化 腸内環境改善で

(株)シクロケム(神戸市中央区)は今年、マヌカハニーとαシクロデキストリン(αCD)の組合せを、これまでの研究結果より最適な腸内環境改善素材として提案強化する考え。

悪玉菌への影響を調査したところ、マヌカハニーに含まれる抗菌成分「メチルグリオキサール」は、悪玉菌の足とされるタンパク質で作られた鞭毛や繊毛を、糖化して破壊。移動不能にすることが確認されている。一方、αCDはリン脂質で構成される悪玉菌の細胞膜に付着し、その膜を剥がして細胞を壊すことが確かめられている。これら結果から両素材の組合せは、マヌカハニーが悪玉菌の足を止めることで、決め手を持つαCDが機能しやすく、相乗効果を持つと同社では提唱する。また、これら作用は悪玉菌に対して選択的に行うという。一方、善玉菌に対しては、αCDは食物繊維として餌になる。マヌカハニーのメチルグリオキサールも善玉菌に資化されて、乳酸に変換。善玉菌が腸内で生息しやすい環境づくりに活かされることが分かっている。

両素材の組合せについて、同社の寺尾啓二社長は「腸内環境改善素材のシンギュラリティと言える」と述べている。